第39回卒業証書授与式　校長式辞

暖かな日差しの中に、春の足音が聞こえてくる、今日の良き日に、ご来賓、並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、第三十九回卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生はもとより、教職員一同の大きな喜びであり、高い席からではありますが、ご臨席いただきました皆様に心から厚くお礼申し上げます。

第三十九回生、三百八名の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんと共に過ごした二年間、機会あるごとに私の思いを言葉として伝えてきました。

「一流の努力」　「向上心」　「恕の心」

「一流の努力」とは、「全力を尽くして小さな努力を毎日積み重ねること」、「向上心」とは、「常に自分を謙虚に見つめ、過去を反省し、それを現在の言動に生かすこと」、本校の校訓でもある「恕の心」とは、「他を受け入れ、認め、他人の立場に立ちその人の痛み、苦しみ、喜びを自分のことのように感じることができる心」です。これからもこの言葉を心に刻み、実り豊かな人生を歩み続けてください。

さて、卒業生のみなさん、今年度は未曽有の災禍に見舞われました。コロナウイルスです。われわれの日常が破壊され、いまも日本全体が先行きの見えない不安に覆われています。学校生活も大きな影響を受けました。五月末まで休業が続き、学校行事や部活動なども中止となりました。ようやく六月から学校が再開されましたが、学校生活は大きく制限され、四月から決意を新たにスタートしようとした生徒たちにとって、残念で苦しい毎日が続きました。現在もその猛威は衰えてはいません。われわれには、これからも不要不急の外出を控え、各自が感染拡大防止に取り組み、自分だけでなく家族をはじめとした多くの大切な人の命を守るという決意をもって日々の生活に臨むことが求められています。

みなさんも覚えていると思いますが、今から十年前の平成二十三年三月十一日、東日本大震災が発生しました。先日も大きな余震があり、あの日の恐ろしさを思い起こした人も多いと思います。この千年に一度と言われる大震災は、想像もできないような大

きな被害をもたらしました。宮城県や岩手県などでは多くの方々が被災され、ほとんどすべての学校で卒業式が取りやめになりました。コロナのため多くの制限を受けながらも、今日この体育館で卒業式ができることを本当に幸せに思います。

その大災害の折、大きく次のことが世界で称賛されました。「日本人のやさしさ・忍耐力・マナーの素晴らしさ」です。あれだけの災害に見舞われながらも、取り乱したり、勝手なことをする日本人がほとんどいないことに世界の人々は驚き、そのすべての振る舞いが世界の人たちの感動をよびました。みなさんは、こうした世界の人々に尊敬される日本人のひとりであることをどうか忘れないでください。

コロナウイルスによる災禍がいつまで続くかわかりません。しかし、未来の歴史書は、東日本大震災と同じようにきっと次のようにみなさんを称賛すると思います。「令和２年から、コロナウイルス感染症により世界は大混乱に陥り、日本も大変な被害を受けた。しかし、当時の日本人が懸命に知恵を絞り、汗を流して働き、日本は急速な回復を遂げた。」

今回のコロナウイルスによる災禍から回復するためには、多くの時間がかかることでしょう。しかし、われわれの国は今までに何度も大きな不幸に見舞われましたが、そのたびに見事に復興してきました。今回のコロナによる未曽有の厄災からも必ず立ち直ることができます。そして、その主役は皆さんです。皆さんはわれわれの希望です。それぞれが進んだ先で、大いに学び、大いに体を鍛え、心を豊かにし、新しい日本を造る主役となってください。この国は、あなた方を必要としています。そして、皆さんが家庭や社会の大黒柱として活躍するころには、日本はこれまで以上に素晴らしい国になっていることを私は確信しています。

保護者の皆様には、本日のお子様のご卒業、誠におめでとうございます。小学校入学から本日までの十二年間、その間には語り尽くせぬ多くの喜びと、多くのご心配ご苦労があったことと思います。

歌手の中島みゆきさんは「荒野より」という歌の中で、親の子に対する無償の愛を次のように歌っています。

「望みは何かと訊かれたら　君がこの星に居てくれることだ

力は何かと訊かれたら　　君を想えば立ち直れることだ」

皆様の献身的な努力が、皆様のすべての愛情が、ここに実を結ばれたことを、改めてお祝い申し上げます。そして、私たちが皆様と共にお子様の教育の一翼を担えたことを心より誇りに思います。三十九回生の生徒諸君は、われわれが胸を張って誇ることができる、素晴らしい生徒たちでした。これまで学校が賜りました、熱心なご支援・ご協力に深く感謝申し上げますとともに、お子様の今後の御活躍をお祈り申し上げます。

さあ、三十九回生の皆さん、いよいよ本校を巣立つときが来ました。最後に日本を代表する漫画家、手塚治虫さんの言葉を送ります。

「人を信じよ、しかし、その百倍も自らを信じよ。」。

皆さんひとりひとりが自分信じ、情熱と強い意志をもって、それぞれの未来に向け、本校の校訓である「知・行・恕」の実践のもと、「向上心」を胸に「一流の努力」を続け、逞(たくま)しく羽ばたいていってくれることを期待しています。

皆さんは、本校の歴史と伝統の中に刻まれた大切な卒業生です。うれしいとき、苦しいとき、困ったとき、いつでも学校へ帰ってきてください。小牧南高校はいつでも温かく迎えます。牧南は今も、これからもずっと、皆さんの母校であり、心のふるさとであり続けることを約束します。

卒業生諸君の今後の健康と発展を念ずるとともに、皆さんの前途に幸多からんことをお祈りして式辞とします。

令和三年三月一日

愛知県立小牧南高等学校長　山田　満貴